

氏名 山 本 眞 也

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1679 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和61年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 頸部気管再建の実験的研究
—— 筋肉内埋込み自家気管を用いて ——

論 文 審 査 委 員 教授 折田薫三 教授 小倉義郎 教授 小坂二度見

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

同種気管移植における血行確保の問題を解決するため、雑種成犬を用いて自家気管を胸乳突筋内に埋込み、これを有茎的に移植する実験を行い以下の結論を得た。

1. 筋肉内に埋込むことにより、約 3 週間後には線毛上皮と軟骨細胞の再生がみられ、血行が確保されていることが判明した。
2. 筋肉内埋込み時に気管内径に応じた EPTFE ringed graft を内挿することにより埋込み期間中と有茎的移植後の気管の変形と狭窄を防止することができた。
3. 有茎的移植後は狭窄症状もなく長期生存し、その内面は線毛上皮により覆われていた。
4. 頸部筋肉内埋込み気管を有茎的に移植する方法は、同種気管移植における血行確保の問題を解決しうる有力な一手段になると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

気管広範囲切除後の代用気管による再建は未解決の重要な問題である。本研究者は将来へつながる同種気管移植を考え、その予備的研究として、切離自家頸部気管を犬の胸乳突筋内に埋没移植して 3 週後、筋肉の一部を付けての有茎再移植による気管の再建を行っている。長期生存に耐えること、血行の確保の重要性を確認している。本研究は極めて独創性に富んだものであり、気管形成術に新分野を拓くものと期待され、本研究者は医学博士の学位を得るに十分であることを承認する。